

令和7年度 授業改善推進プラン4年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策	2 学期	3 学期
国語	①説明文・物語分に共通して、段落や場面の構成を捉える力に課題がある。 ②自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書く力に課題がある。	①文章構成が視覚的に理解しやすいよう、全文シート等を活用する。文章構成を捉えるため、「中心文の見つけ方」「接続詞の意味」「場面のつながりを意識して読む」などを繰り返し指導する。 ②意見・理由・具体例を整理し、思考を言語化しやすいワークシートを活用する。見本や表現方法の例等の提示をする。自分の考えを言語化する経験を積むため、授業の最後に必ず学習の振り返りを書く活動を設定する。		
社会	①資料から必要な情報を読み取ることに課題のある児童がいる。	①資料から分かることをいくつか全員で確認し、読み取り方を押さえてから個人で読み取りをする。また、思考を整理するために、資料から分かることと考えたことを分けて書かせるようにする。		
算数	①文章題における立式の仕方や、文章題の意味の理解に課題のある児童が多くみられるので支援していく必要がある。 ②計算の仕方が定着していない実態が見られるので、支援していく必要がある。	①問題を正確に理解して筋道を立てさせるため、図や表、数直線など活用できるツールを積極的に取り上げる。 ②朝学習の時間や算数の初めの5分程度の時間を活用して、まなびポケットなどのICTや、プリントを使って、既習内容の計算練習を繰り返す行う。		
理科	①学習意欲や興味・関心は高い傾向にあるが、理科の学習が日々の生活に生かそうという意識は低いので支援していく必要がある。	①理科を学ぶことの意義や有用性について、授業の中で触れる機会をつくるなど、生活との関連を意識させる授業を行い、改善を図る。		
音楽	①基礎的な技能の力は段階的についているが、周りの音と自分の音を聴き、表現の工夫に繋がるとよい。 ②音楽を形づくっている要素を聴き取ることに慣れる必要がある。	①技能の向上を個別にゴールを設定して取り組ませることで無理なく参加できるようにする。聴いて真似する簡単な常時活動を授業に取り入れて「聴く」力を育てる。 ②音楽の成り立ちを説明するための音楽的な言葉の例を示し選ばせるなどして言語化する活動に慣れるような手立てをする。		
図画工作	①活動の流れを理解し、友達と協力し取り組むことができるが、一人で活動を進めることに自信がない児童が多い。 ②発想を深めずにすぐに仕上げようとする児童と、時間がかかってしまう児童もいて、進度や内容に差が出てしまうことへの支援の必要がある。	①全体で活動の流れを共有し、可視化して一人でも迷わず進められるようにする。 ②活動の途中でも、全体でそれぞれの活動やアイデアの良さや面白さを共有するなどして、視野を広げたり、方向性を見つけたりできるようにする。		
体育	①運動に取り組む目的、ねらいを理解して活動できている児童が少ないので支援していく必要がある。 ②運動に対して苦手意識の強い児童がいるので支援していく必要がある。	①毎時間、自分のめあてを確認する時間や振り返りの時間を設ける。学習カードの振り返りを基に、教師は助言や発問を行い、児童自らAARサイクルを回して学習できるようにする。 ②導入で運動遊びなどの易しい運動を取り入れることで、苦手な領域でも運動の楽しさを味わえるようにする。		
外国語活動	①外国語活動の学習の必要性は感じているが、進んで表現することに消極的な児童への支援が必要である。	①英語表現での交流を積極的に行い、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを感じさせる。言葉や身体表現も使ってチャンツやゲームをしながら、英語表現に慣れさせるとともにペア学習を取り入れ、失敗を恐れずに表現できるような支援をする。		
道徳	①自分の考えを積極的に発言できる児童で、授業が進んでしまう。	①ペアやグループでの話し合いの場を設け、自分の考えを発信する機会を作る。		
総合	①調べたことをまとめる際に、ICT機器を使うことにより、個人差が大きくなってしまう。	①全体で使える機能等を指導していく。他教科でもICT機器を使う機会を多く設定する。		
ICT端末の活用	①タブレット端末使用に関するきまりの徹底。 ②タイピング、検索による情報収集、表・グラフの作成等の技能面で個人差が大きい。	①学年集会による共通理解、生活指導部からの全体周知等の場を適宜設け、学校全体で足並みの揃った指導を行う。 ②学習活動の中にタブレット端末の活用を積極的に取り入れ、様々な使い方を体験的に学ぶ場面を設定する。		